



顧客成功事例

Debeka

ドイツ最大の保険会社が、
柔軟性と AI 活用を求めて
EDB Postgres® AI で
先進的な機能を獲得





顧客：DEBEKA

2022年10月より EDB を利用

Markus Hartmann

Head of
Platform-as-a-Service,
Debeka

課題：Debeka には、より拡張性が高く、最新化されたデータベースシステムが必要でした。これにより、追加のストレージや多様な機能、そして業務推進に不可欠なコンプライアンス機能を実現することが求められていました。

EDB ソリューション：Trusted Postgres Architect、Postgres Enterprise Manager、EDB Failover Manager を含む EDB スタンダードプラン

成果：EDB の支援により、Debeka はシステムの各コンポーネントを PostgreSQL を基盤に再設計し、柔軟性と拡張性を兼ね備えた最新のデータベースソリューションで新たな可能性を切り拓きました。

概要

ドイツの最大手民間健康保険会社が EDB と Postgres を選定し、データベースの更新を実現

どんなタイプのデジタルトランスフォーメーションも簡単ではありません。特に、長年にわたり膨大で複雑なデータを従来の運用モデルで扱ってきた大規模な組織にとっては、克服がほぼ不可能に感じられるほどの大きな課題となることがあります。

ドイツ最大の民間健康保険会社 Debeka のプラットフォーム部門を指揮する Markus Hartmann 氏は、こうした課題を熟知していました。そのため、よりスケーラブルで最新のシステムが求められる新たな事業プロジェクトに取り組む際にも、簡単な道ではない道をすぐに理解しました。



このプロジェクトは開始早々、さまざまな障害に直面しました。まず、Debeka の業務規模と今回のデータベース移行の複雑さが、特有で広範なストレージや機能要件への対応を必要としました。加えて、新しいシステムは保険業界におけるドイツの厳格なデータ管理規制にも完全に従う必要がありました。



「市場を調査した結果、十分なサポートとコンサルティングを提供できる Postgres データベースのベンダーは非常に限られていました。」

Markus Hartmann

Head of
Platform-as-a-Service,
Debeka

幸運なことに、ハートマンのチームはプロジェクトの重要な要素の一つを早い段階で決定していました。それは Postgres を利用することです。Hartmann 氏は PostgreSQL データベースの運用経験があり、オープンソースの利点についても十分に理解していました。その知識をもとに、Postgres を利用したアーキテクチャがチームにとって最適であると早期に判断しました。しかし、今回のバージョンでは、より複雑なユースケースへの対応や、急増するデータ量の管理、また規制遵守も考慮する必要がありました。

「Postgres は以前、社内の小規模アプリケーションに利用されていましたが、今回はストレージや機能、コンプライアンスが強化された新バージョンへの移行が求められました」と彼は述べています。「市場を広く調査したところ、Postgres データベースを製品として、しっかりとサポートとコンサルティングを提供できるベンダーは本当に限られていました。」

やがて、Hartmann 氏のチームは慎重に構えつつ、EnterpriseDB (EDB) に接触しました。クラウドベースのソリューションへの移行は現実的ではないと感じていたため、初期の数ヶ月は期待と不安が交錯していました。しかし、EDB の多様な機能や担当者とのやり取りを重ねるうちに、意外にも理想的なパートナーである可能性が高まっていきました。

「当初はクラウド企業ということもあって、自分たちとは異なる分野だと感じていました。どのように機能するのかもわからず不安もありましたが、プロジェクトが進むにつれ、彼らが信頼できるパートナーだと実感するようになりました」と彼は述べています。「コストや規模について議論した際、全ての点で私たちに最適だと確信しました。」

優先事項の戦略的転換

新たな提携が良い方向に進んでいたにもかかわらず、Debeka は EDB との統合以外にも社内での問題に直面していました。特に、単一のデータベースを支える大規模アプリケーション構築に基づく PoC (概念実証) が長引いていることが課題となっていました。

Hartmann 氏は、EDB が提供する新たなインフラやツールのおかげで、企業の優先事項を柔軟に変更できることに気づきました。特に、EDB の柔軟性と拡張性を活用して、Debeka を Postgres 中心の企業に変革し、自社開発アプリケーションの迅速かつ効率的な展開に注力する機会を見出したのです。これは、従来の社内データベースに固執せず、より進化した運営スタイルにシフトすることを示しています。

Hartmann 氏は、この変革のきっかけとして EDB の自動化機能や Postgres の新たな連携を挙げ、初めは ただ便利だと感じていましたが、最終的には部門全体の先進化を進めるために欠かせないと認識し、戦略的な観点から方針を転換することを決めたと述べています。

「EDB の自動化機能や連携は、当初は “あると便利” 程度のものだと思っていましたが、今ではデータベース活用をさらに進化させるためには欠かせない存在となっています。」



「EDB の自動化機能や連携は、当初は便利だと感じていましたが、今ではデータベースの進化を加速するために欠かせない存在となりました。」

Markus Hartmann
Head of
Platform-as-a-Service,
Debeka

将来への備え

今後、Debeka の Hartmann 氏とそのチームは、Postgres 上での自社開発アプリケーション展開戦略をさらに洗練させつつ、最終的には EDB のインフラストラクチャコード化の手法を活用し、サービス提供の標準化を目指す予定です。

具体的には、Hartmann 氏は Debeka がすでに AI を利用し、顧客請求書の高度な処理など複数の重要な業務の自動化に成功していると述べ、今後は EDB の強力な支援機能を活用し、新たなユースケースやさらなる向上の機会を探ることを期待しています。実際、Hartmann 氏のチームはすでに Postgres インフラ上でデータレイクの構築に着手しており、新しいアプリケーションの開発を進めている中で、EDB のサポート機能が開発プロセスをより楽しいものにしていると感じています。

「新たな AI 活用の可能性を広げるためには、優れた API が不可欠でしたが、EDB や関連プラグインの導入により、特別なフレームワークを組み合わせてデータベース上に構築することが可能になりました」と彼は述べています。「これらの機能は、開発者たちにとって実際に試す楽しさを提供しています。」

“**新たな AI 活用の可能性を広げるためには優れた API が必要でしたが、EDB およびその周辺プラグインを導入することで、データベースの上に特別なフレームワークを構築できるようになりました。**

Markus Hartmann
Head of
Platform-as-a-Service,
Debeka



EDB Postgres AI について

EDB Postgres AI は、企業向けのオープンかつ主権型データ・AI プラットフォームとして初めて登場したものです。安全性、コンプライアンス、拡張性を兼ね備え、オンプレミスとクラウドの両方で運用できます。グローバルなパートナー・ネットワークによるサポートのもと、トランザクション処理、分析、AI ワークロードを統合し、組織が必要な時・場所・方法でデータや LLM を活用できる環境を提供します。詳細は www.enterprisedb.com をご覧ください。